

## ■ 県議会における意見

- 昨今の資材価格等の高騰で建設費が上振れとなるなど、基本計画策定当時から社会情勢が大きく変わってきた。周辺にある同規模の体育施設の改修計画もあり役割分担と差別化が必要。基本計画にこだわらずに、地域経済への波及効果や役割を明確にし、建設手法そのものの見直し等も含め、しっかりと議論、検討し、将来にとってよりよい施設となるよう取り組むべき。
- 武道館機能を持った施設ではなく、武道の殿堂として相応しい、武道の魂が入った武道館を目指し、富山県武道館を建設することとなった当初の意義や趣旨、方針に今一度立ち返り、一日も早い開館に向けて、しっかり取り組んでほしい。

- 富山市内にはスポーツイベントなどに関する類似施設が多くあり、その必要性、機能を再検討する必要がある。建設費の増大を吟味し、必要性や整備時期を再検討すべきである。
- 大規模アリーナ計画と武道館の建て替えをドッキングさせた大規模公共事業であるが、当初の予算規模で建設可能な富山県武道館とする計画に見直したかどうか。
- 仮に富山県武道館の基本設計を見直し、多目的機能を切り離す判断をする場合には、多目的機能を県と富山市が連携して、どのように確保していくかという議論もセットで行ったうえで結論を出す必要があると考える。

## ■ 県の回答

- 今後、建設費のさらなる削減、基本計画策定後の建設予定地周辺における環境変化を踏まえた機能・規模の見直し、市町村との役割分担、整備手法等について、検討を進めたい。また、関係者のご意見もお聞きし、できるだけ早く整備方針を固め、令和9年度中の開館に向けて、最大限努力したい。